

2019年度第5回世界メッシュコード研究会 2020年1月18日（土）開催について



科学技術振興機構さきがけ「グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究」(Grant Number: JPMJPR1504; 研究期間:2015年10月-2020年3月)で研究開発しました成果について報告いたします。また、科学技術振興機構未来社会創造事業特定課題調査の2019年度実施計画に基づき、世界メッシュ研究所サポート会員様を主とした講演者の皆様からの事例報告並びに利用方法と潜在的ニーズに関するご講演をいただきます。研究会の後半では、これまでの研究会で収集した世界メッシュ統計データおよびデータ基盤の利活用方法アイデアに基づき、UXの手法に基づくユースケースの試作をグループワークとして行います。どうぞ、皆様奮ってご発表およびご参加ください。

日時：2020年1月18日（土） 13時～18時

場所：TKP 横浜駅西口カンファレンスセンター カンファレンスルーム1

住所：横浜市神奈川区鶴屋町2-24-1 横浜谷川ビルディング ANNEX B2F

※会場へのアクセスは以下を参照ください。

URL: <http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

参加お申込みの方法

以下 URL にあるフォームから必要事項を記入してお申込みください。

<https://www.fttsus.jp/worldgrids/ja/events/>

申込締切 満員御礼・定員に達しましたため参加受付を終了しました。どうぞ、次回世界メッシュコード研究会へご参加お申込みください。世界メッシュ研究所サポート会員としてご登録頂けますと、メーリングリストにて研究会案内をお送りさせていただきます。

内容

- ・科学技術振興機構さきがけ研究「グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究」の成果報告
- ・世界メッシュ統計データ基盤「統計情報可視化システム MESHSTATS」の利用方法と試

作アプリケーションの紹介

- ・利活用事例発表とアイデアプレゼンテーション（1件10分×11件）
- ・次年度の世界メッシュコード研究会活動計画について

プログラム

13:00-13:10 開会

13:10-13:20 自己紹介と名刺交換

13:20-13:40 横浜市立大学・科学技術振興機構さきがけ 佐藤 彰洋 「科学技術振興機構さきがけ研究 グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究の成果」（20分）

13:40-14:00 横浜市立大学・科学技術振興機構さきがけ 佐藤 彰洋 「世界メッシュ統計データ基盤 MESHSTATS の利用方法と試作アプリケーションの紹介」（20分）

14:00-15:50 利活用事例発表とアイデアプレゼンテーション（10分×11件=110分）

1. NEC バイオメトリックス研究所 池田 圭祐「友人群の地理的近接性に着目した居住エリア推定手法の検討」
2. Keysight Technologies 後藤 正治「大規模計測データにおけるビッグデータ解析手法」
3. 株式会社インテージ 佐藤 健一「スマートテレビ視聴ログから見る地域性」
4. 技研商事インターナショナル株式会社 倉本 忠「クロス集計メッシュ統計データの推計と活用事例」
5. 富士通クラウドテクノロジーズ株式会社 金岡 亮「メッシュ化された公的統計/衛星データ活用の可能性」
6. 株式会社ドコモ・インサイトマーケティング 斧田 佳純「メッシュ化された人流データ「モバイル空間統計」の活用可能性」
7. 京都市総合企画局情報化推進室統計解析担当 大坪 一希「京都市のオープンデータへの取組」
8. 鎌倉市共創計画部政策創造課 課長 竹之内 直美「鎌倉市におけるオープンデータ、データ活用の現状と課題」
9. 株式会社リクルートキャリア 加藤 茂博「人材戦略の地域最適性」
10. 京都大学 北尾 朋広「メッシュ統計を用いたバス経路評価システムについて（2019年京都大学サマーデザインスクールにおける活動報告）」
11. 株式会社 JTB 総合研究所 熊田 順一「データ活用による観光関連業務の効率化について」

15:50-16:00 休憩

16:00-17:00 グループワークによるユースケース試作(A3用紙にマーカーで利活用法の詳細について試作します)(60分)

17:00-17:50 試作品の発表会(50分)

17:50-18:00 閉会

・講演題目と概要

横浜市立大学・科学技術振興機構さきがけ 佐藤 彰洋

「科学技術振興機構さきがけ研究 グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究の成果」

2015年10月より研究を開始しました科学技術振興機構さきがけ研究「グローバル・システムの持続可能性評価基盤に関する研究」では、データ・フローの構築、現実と相互作用する評価システムの導入、クラウドコンピューティング技術を用いたデータ分析基盤の設計と実装、数値と計算アルゴリズムの開発の4つのトピックスを設定し、ビッグデータ統合分析方法の蓄積とステークホルダーとの関係性の蓄積を主眼に研究を行ってまいりました。この間、我が国固有の産業規格である日本産業規格地域メッシュコード (JIS X0410) の全世界拡張である世界メッシュコード体系の確立、オープン計算ライブラリの開発と公開、衛星データを主たるデータ源とした全世界を網羅する標高、夜間光、行政界ラベルメッシュに作成と、世界メッシュ統計データの一部オープンデータ化、統計情報可視化システム MESHSTATS の開発を実施してきました。この間、アプリケーション、ユースケースの開発を世界メッシュ研究所サポート会員の皆様と行うための世界メッシュコード研究会の実施を続けてまいりました。すでに世界メッシュコード研究会の開催は通算で20回を超え、サポート会員数は77名(2020年1月現在)となりました。これまでの研究で開発してきました、全世界を網羅するメッシュ統計についての紹介と、様々なデータ源を用いて作成された世界メッシュ統計を使った、結合分析、データ合成、パターンの発見や、非効率箇所の特定制を行うことにより、我々の認知できない規模と複雑性を取り扱う方式について成果発表させていただきます。

横浜市立大学・科学技術振興機構さきがけ 佐藤彰洋

「世界メッシュ統計データ基盤 MESHSTATS の利用方法と試作アプリケーションの紹介」
世界メッシュ統計データ基盤 MESHSTATS は我が国固有の産業規格である日本産業規格地域メッシュコード(JIS X0410)の全世界拡張である世界メッシュコードに準拠して、最大で1000種類以上のメッシュ統計を30種類以上の機能に分けて利用できる基盤としてサービス提供を提供しています。すでに、350名以上のモニタユーザの皆様へサービスを提供しており、250の国と地域について世界メッシュ統計を14か国語で提供可能なシステムとなっております。全世界規模でのメッシュ統計基盤を利用することにより地域のデータを集め結合して取り出すだけでなく、WebAPIを利用して新たなアプリケーションを開発・配置することを可能とする統合データ基盤となりました。本講演では、MESHSTATS の利用方法と、WebAPI 機能を用いたバス路線評価アプリケーションについてご紹介させていただきます。

NEC バイオメトリックス研究所 池田 圭祐

「友人群の地理的近接性に着目した居住エリア推定手法の検討」

本発表ではソーシャルメディアユーザーの居住エリアを推定するタスクにおいて、実社会においても交流のある友人(オフライン友人)の情報をより重視して推定する手法を提案した。オフライン友人の判定では密度ベースのクラスタリング手法である DBSCAN を利用し、居住エリアが近接している友人群をオフライン友人とした。その結果、地理的な距離と友人関係の有無による関係式を用いて居住エリアを推定する従来手法より 1.7 ポイント推定性能が向上した。

Keysight Technologies 後藤 正治

「大規模計測データにおけるビッグデータ解析手法」

数 TByte の大量計測データを連続記録し、効率的に解析する技術について説明します。弊社開発新技術により、従来長時間を要したクラスタリング処理を瞬時に完了し、対話的ビッグデータ解析を実現します。

株式会社インテージ 佐藤 健一

「スマートテレビ視聴ログから見る地域性」

ラグビーワールドカップ 日本-スコットランド戦を例に、スマートテレビ視聴ログに現れる地域性について解説する。

技研商事インターナショナル株式会社 倉本 忠

「クロス集計メッシュ統計データの推計と活用事例」

地域居住のメッシュ統計データは主に国勢調査などで公表されていますが、「高齢者が居住し、かつ借家世帯かつ夫婦のみ」などのクロス集計は残念ながら公表されていません。こうした統計指標こそ経営指標に直結するデータであり、民間企業におけるマーケティングの現場では必要とされています。このようなニーズに対して弊社が取り組んでいる、IPF (Iterative Proportional Fitting) 法によるクロス集計メッシュ統計データの推計とその活用事例についてご紹介させていただきます。

富士通クラウドテクノロジーズ株式会社 金岡 亮

「メッシュ化された公的統計/衛星データ活用の可能性」

富士通クラウドテクノロジーズでは、各国が公開する人工衛星データを利用した「Starflake」など公的な統計データをメッシュ整形して販売しております。今回は、メッシュ整形することによるデータ混合の可能性、ユースケースについて紹介します。

株式会社ドコモ・インサイトマーケティング 斧田 佳純

「メッシュ化された人流データ「モバイル空間統計」の活用可能性」

ドコモの携帯電話ネットワークのしくみを使用して作成される人口の統計情報「モバイル空間統計」の概要および活用事例のご紹介

京都市総合企画局情報化推進室統計解析担当 係長 大坪 一希

「京都市のオープンデータへの取組」

京都市オープンデータポータルサイトは、2016年11月30日の開設以来3年が経過しました。この間、データセット数は215→333、データリソース数は7,813→11,417と、順調に増加しています。しかし、機械判読可能なフォーマットとなっていないデータが多く、メッシュ統計に利用できる位置情報を含むデータも不足しているなど、課題も多々あります。今回、京都市の抱える現状と課題、それに対する取組状況について御報告いたします。

鎌倉市共創計画部政策創造課 課長 竹之内 直美

「鎌倉市におけるオープンデータ、データ活用の現状と課題」

鎌倉市では、2014年度に三浦半島4市1町同時にオープンデータポータルサイトを立ち上げ、2016年度には「鎌倉市オープンデータの推進に関する指針」を策定。またデータ活用に向けて各種イベント実施、庁内職員向け研修も行ってきましたが、公開データ件数の伸びや公開データの質、データ活用には多くの課題があります。行政評価やKPI設定、EBPMなどの視点も含め、鎌倉市の現状と課題についてお話をさせていただきます。

株式会社リクルートキャリア 加藤 茂博

「人材戦略の地域最適性」

一手不足が深刻化する中で、地域特性と人材戦略の最適化について議論する

京都大学 大学院生 北尾 朋広

「メッシュ統計を用いたバス経路評価システムについて（2019年京都大学サマーデザイン

スクールにおける活動報告)」

メッシュ統計データ基盤 MESHSTATS の Web API を用いたバス経路評価システムの設計方法について2019年京都大学サマーデザインスクールにおける活動で行った内容について報告する。

株式会社 JTB 総合研究所 熊田 順一

「データ活用による観光関連業務の効率化について」

オンライントラベル時代におけるデータ活用による効果的な観光業務シフトへの転換について持続可能な観光の観点からメッシュスタットを活用したソリューションについて議論する。